

# 【エシカルかおりプロジェクト】

～香りを通して自然との共生を考える～

代表教員：根建 美也子、プロジェクト構成員：和田 梢／石田 詠蓮／本間 千晶

## 【目的】

現在の環境教育では、

- ・ 環境問題への関心が継続しにくい
  - ・ 知識をつけても、日常生活での行動変容につながりにくい
- といった課題が挙げられる。

一方、嗅覚は記憶・感情と強く結びつく感覚であり、日常生活の中でも継続的に意識されやすい特徴を持つ。また、植物は香りを用いて虫を誘引・忌避したり植物どうし危険を知らせたりするなど、生物同士の情報伝達を行っている。そこで、本プロジェクトでは、嗅覚を意識した香りの授業を通して、香りへの興味を引き出すとともに、日常生活の中で嗅覚を意識することを目指した。さらに、植物が香りを放出する役割を学ぶことで、生物どうしのつながりへの理解を深め、自然とともに生きる意識（共生の感覚、本プロジェクトではこれをエシカルと定義）を育むことを目的とした。

## 【内容】

### 【学生の活動】

2025年4月～5月 香りの授業について理解を深め、環境教育における香りの役割について学習した。

2025年5月～ さいたま市立下落合小学校土曜チャレンジスクール 「香りの授業」の補助を行った（参加者：同小学校児童40名）。本授業をふまえ、イベント名の考案、PowerPoint資料の作成、ワークショップ内容の提案等、授業内容の構想立案に取り組んだ。

2025年6月中旬 InstagramやLINE等のSNSを用いた広報について検討、千代田区に告知や広報を依頼した。

2025年8月21日「香りの教室」（参加者：千代田区在住の小学生と保護者30名）を実施、受付、来場者対応、ワークショップ補助等を担当した。

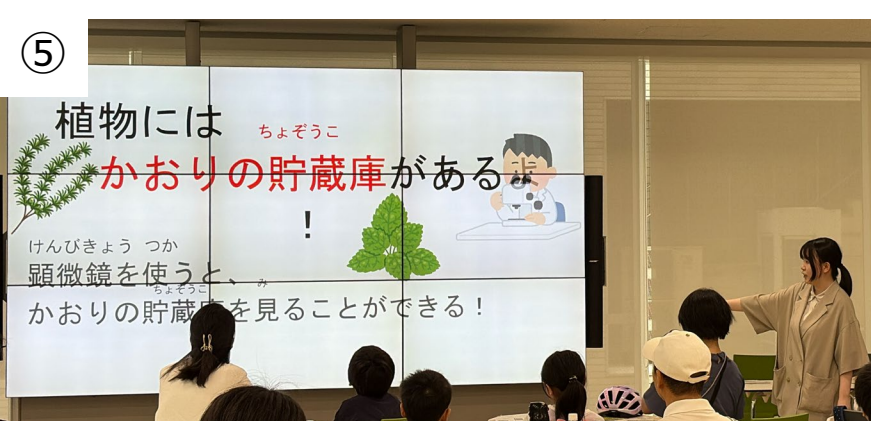
2025年9～11月「香りの教室」後アンケートの集計および発表準備を行った。

2026年1月7日 卒業演習発表にて成果を報告した。

2026年3月12日 地域連携プロジェクト報告会にて活動成果を発表した。

### 【香りの教室の様子】

#### 香りの授業（理解）



⑤のように、植物が香りを貯蔵する場所を文字で説明することに加え、実際に顕微鏡で観察したり(⑥、⑦)、用意しておいた顕微鏡写真を拡大して、スライドに映し出したりして、効果的に印象に残るよう努めた。

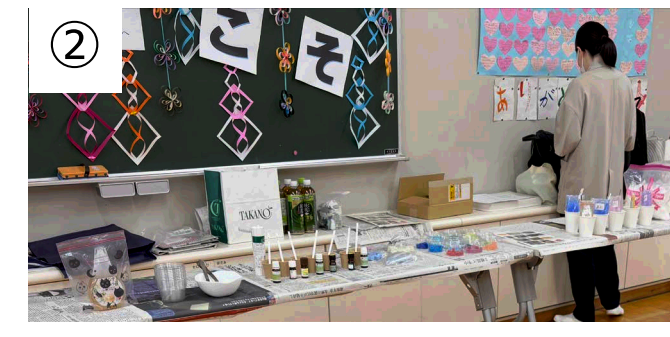


#### ワークショップ（体験）



⑧、⑨：精油を何種類か用意し、参加者に好きな香りの精油を選んでもらい、教員と学生で石けん素地に垂らした。

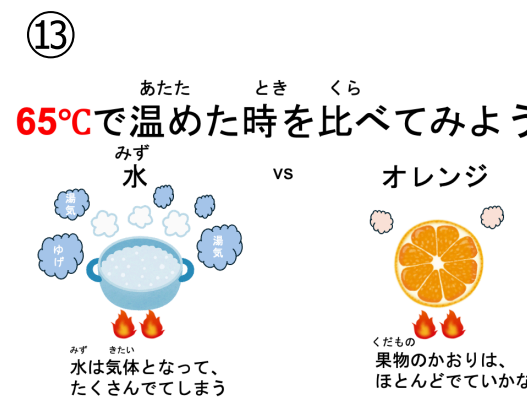
⑩学生の試作品



④学生が作成したポスター

①～③土曜チャレンジスクールの様子。さいたま市の地域連携コーディネーターの方に小物作りを教わった(③)。

#### 香りの変化の体験（応用）

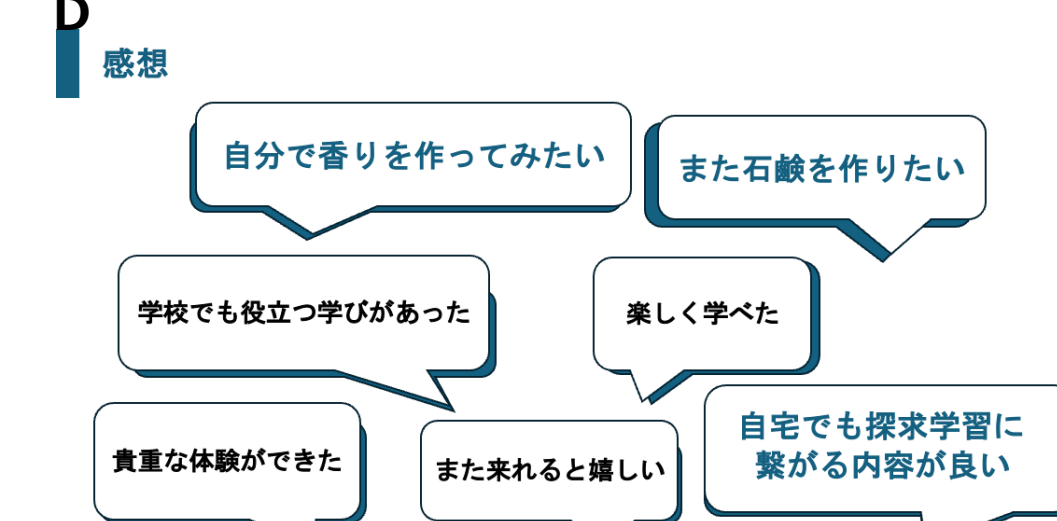
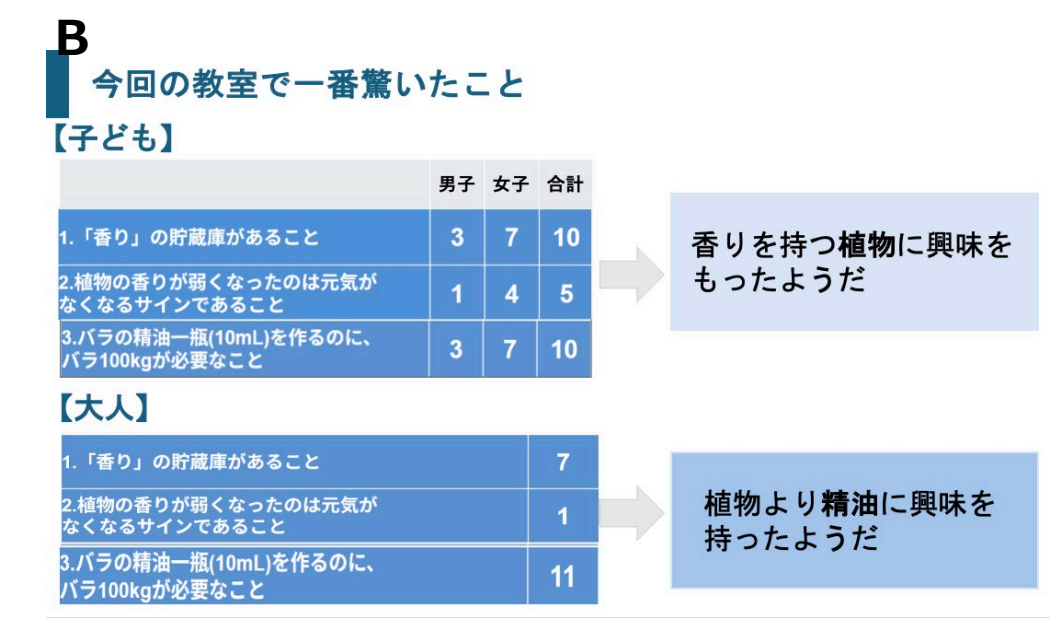
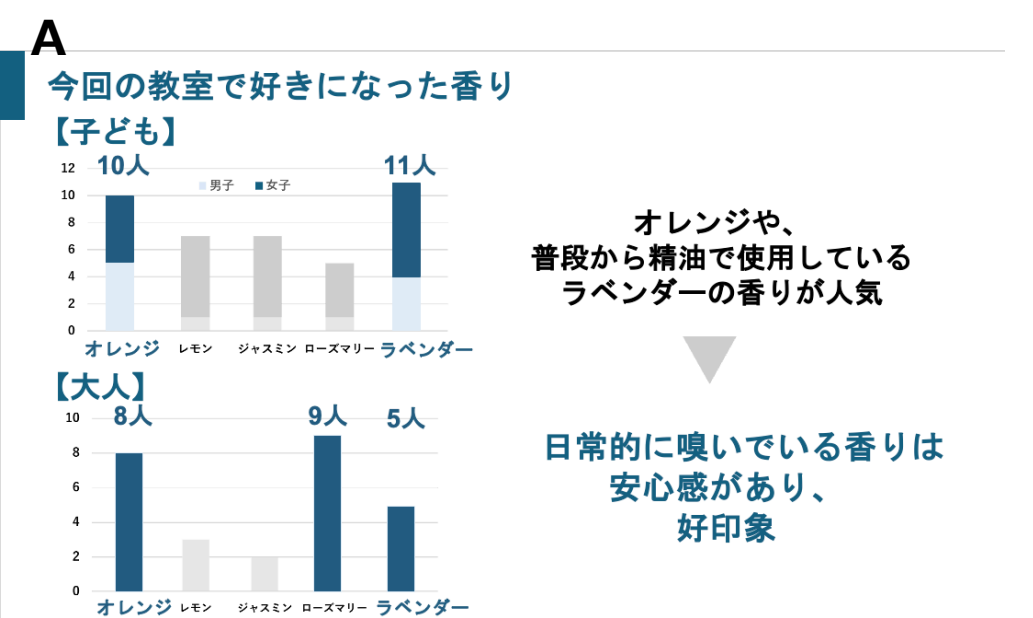


⑪、⑫フードドライヤーによる乾燥前、乾燥の間、乾燥後の香りの強さの違いを直接嗅いで比較してもらうことで、嗅覚での理解による印象付けることを目指した。同時に、スライドでも説明した(⑬)。

- 1) 香りへの興味 **関心・継続意欲が向上**
- 2) 嗅覚への意識 **視覚+体験の組み合わせが有効**
- 3) 課題 **共生感覚には継続体験が必要**

## 【結果・成果】

A～D「香りの教室」実施後アンケートのまとめ 回答者28名（子ども15名・大人13名）



### 【考察】

本活動で実施した「香りの教室」を通して、参加者の香りへの興味を引き出すことができた。また、日常生活において嗅覚を意識するきっかけを提供できたと考えられる(B)。一方で、生物同士のつながりや自然との共生感覚を育むためには、1回限りの授業では不十分であり、継続的な体験や学習が必要であることが示唆された(C, D)。

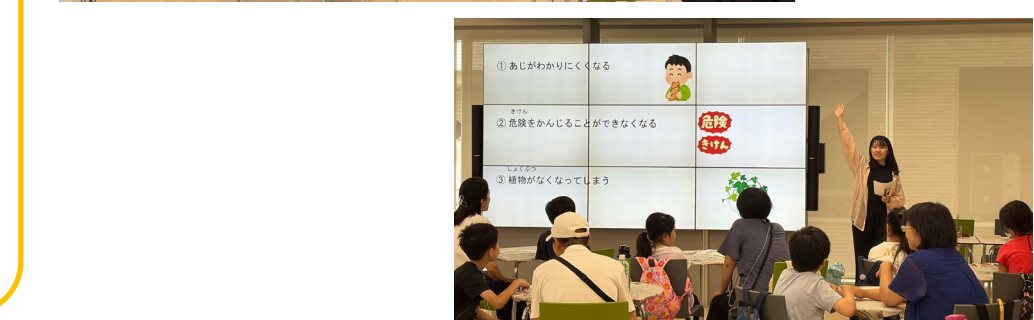
### 【改善案】

植物が香りを放出する役割をイラストで示すことや、腐敗臭によって危険を察知し、からだを守るなど、香りが実生活と関わる具体例を提示することで、より関心を高められると考えられた。また、一時的に鼻をつまんでもらい、香りのない世界を体験することで、植物がもたらす香りの価値を実感できる可能性がある。さらに、香りへの興味を継続させる工夫として、香りのみから植物を推測する体験活動を提案した。学校や地域に存在する植物を用いることで、授業後も実際の植物を観察する機会につながり、日常生活の中で 香りへの意識を継続できると考えられる。また、未知の植物を扱うことで、新たな興味や発見にもつながることが期待される。

### 【今後の展望】

ドライフルーツ作り等の体験型学習や、事後学習用「香りのワークノート」の制作・配布を通して、香りへの関心と環境への意識を継続的に育む教育手法へ発展させたい (E, F)。

【謝辞】 千代田区コミュニティ総務課ならびにさいたま市地域連携コーディネーターの皆様より温かなご支援を賜りました。ここに深く感謝申し上げます。



**【構成内容案】**

- 1.今日の振り返り
- 2.学校にある植物の匂いを嗅いでみよう
- 3.家庭での香り体験（料理・洗剤・ハーブなど）を親子で共有しよう

家でも香りについて考える時間を増やす

**①五感を使った学び** → 香りについての理解と記憶の定着

**②継続的な学び** → 香りや植物への継続的な興味

**③香りを通した植物への意識** → 自然との共生感覚

自然との共生を当たり前と思う人が増えることは、何十年先の自然の保護につながるのでは...